

「心は真夏！の熱戦」



予選クラストップから初優勝！！ #15

2015K 耐久/GT 耐久東海シリーズの第2戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで行われた。小型・普通車が参加する耐久シリーズとして、東海地区のみならず全国的にも注目されている。

前日までの雨予報が、うって変わって快晴しかも夏日。これはひとえに各エントリーたちのアツキパワーのなせる業か！

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

開幕戦の10台に続き、今回は9台がエントリーし、ますます存在感が強くなってきたこのクラス、開幕戦優勝の#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」には20キロのウエイトが課される。100ps そこそこのエンジンにこのウエイトはどう影響するか。その他1500のヴィッツがもう一台、リッターヴィッツが1台といった感じの布陣。いよいよ優勝が見えてきた#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)にも注目。

■予選

予選トップは#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)1'05.020 が連続クラストップ。開幕戦は2位に終わったが頂点を狙う。2番手は#21「ZEST ルブロススターレット」1'05.927、歴史を感じさせるスターレットだが、どっこい速さは現役トップクラス。かつて富士を走り回ったマシンが西浦でも活躍中だ。3番手は#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」1'06.871、意外と言っては失礼だが、デミオが3番手。昨年あたりから比べると軽量化も進み、しっかり熟成が進んでいる。あとは結果に結び付けたいところ。

4番手は#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」1'06.910、開幕戦より大きな径のタイヤで、ギヤ比をカバーするなど、新たな試みで連勝を狙う。5番手は#77「トータルセブンロードスター」1'09.142、新型の発売で再び注目が集まるライトウエイトオープン、むき出しでのレースはやはり楽しい。6番手は#70「トータルセブンシビックGT」1'09.148、トラブルか？タイムも順位も沈んだ王者、ここからの巻き返しに期待。

7番手は#39「赤ヴィッツ1号機」1'09.150、こちら1500のヴィッツ、初参加の走りに注目。8番手は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が1'07.703、こちらのヴィッツはリッターヴィッツ、義務ピットが一回少ない分をうかく活かせば意外な伏兵になるかも。予選最後尾は#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'16.065、NA型ロードスターで本来は10秒を切れるくらいの速さがあるので、この予選は不本意か。決勝での走りに期待したい。



自己最高位！次は頂点を狙う #21



やはり実力派チーム #70



リッターヴィッツもシブい！ #46

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■序盤

まず、序盤ペースを握ったのは#21「ZEST ルブロススターレット」、予選2位からトップを奪い快走。追いかけるのは#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、開幕戦優勝チームには連勝の期待とともにウエイトもかかっているが、序盤はそれを感じさせない走り。3番手は#15「シャトー・ラ・フィット」、開幕戦同様早めのピット戦略か。以下、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が中団グループ。

さらに#39「赤ヴィッツ 1号機」、#70「トータルセブンシビック GT」、#77「トータルセブンロードスター」がほぼランデブー走行、最後尾スタートの#50「MSCJ 奈良ロードスター」もしっかりと周回を重ねている。



緑の部分増えましたか #77

■中盤

中盤でトップに浮上したのは#15「シャトー・ラ・フィット」、念願の初優勝への期待がかかる。#21「ZEST ルブロススターレット」も初優勝をかけて食らいつく。3位は#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」でこちらが勝てば昨年から3連勝のハットトリック。

中団以下も熾烈、#39「赤ヴィッツ 1号機」、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、#77「トータルセブンロードスター」、#70「トータルセブンシビック GT」と続く。

予選、序盤と好調だった、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」は少し下がってこの位置、#50「MSCJ 奈良ロードスター」とともに巻き返しに期待。



こちらは 1500 ヴィッツ #39

■終盤

レースは終盤、2時間経過。トップを行くのは#15「シャトー・ラ・フィット」。同一Lapで#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、1Lap差で#21「ZEST ルブロススターレット」と、ここまではほぼ差がない模様、このままいけば表彰台圏内だが・・・

4位にはやっと上がってきた、実力チーム#70「トータルセブンシビック GT」。トップからは3Lap差、最後の追い込みはなるか。

5位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、6位#39「赤ヴィッツ 1号機」、7位#77「トータルセブンロードスター」がトップから5Lap差。

#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」は少し下がってこの位置、#50「MSCJ 奈良ロードスター」も規定周回数はクリアできそうだ。



予選は好調、次回はリザルトにつなげたい#67



黄色のマシン多くなった気がしませんか #50

ロードスターでレースっていいですね

Race Report



■最終結果

最後まで走り切った#15「シャトー・ラ・フィット」が見事初優勝、フィットの優勝はシリーズ初！ランキングトップも浮上。2位は#21「ZEST ルブロススターレット」が初めての表彰台、チームとしても軽耐久以来久しぶりのお立ち台。3位は#70「トータルセブンシビック GT」、予選、序盤と苦しんだが終わってみればしっかりと登壇するあたりはさすが。

4位は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、リッターヴィッツのため爆発的な速さはないが、ピット戦略をうまく使って粘りのレースを展開。5位は#77「トータルセブンロードスター」ロードスター対決を制したのはNB型。6位は#39「赤ヴィッツ1号機」、初出場をしっかりと完走。7位#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」予選、序盤と好走した、次なる課題は見つかったか。8位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、規定周回数は余裕でクリア。

9位は#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、トップ争いの終盤戦で、エンジンが不調になるトラブルに見舞われ後退。最後は何とか完走にこぎつけ貴重なポイントを手にした。

■総評

開幕戦に続き活況を呈したこのクラスに新しいウイナーが誕生した。GE型のフィット(2代目)は昨年からの参戦し順調に熟成が進むとともに速さ・リザルトともにアップしとうとう初優勝。前期型の5速仕様だが、開幕戦の予選では4秒台に入れる速さを持っており、優勝に値するポテンシャルを持っている。EK3シビックとともに有力車種でいずれは世代交代が期待される。

対するはスターレット&ヴィッツのトヨタコンパクトカー。1500ヴィッツはすでに優勝経験もあり、スターレットはかつてのチャンピオンシリーズ車両とこちらもポテンシャルは充分。

そしてロードスター、絶対的な速さこそないがオープンでのレースという楽しみ方に加えFRでドライビングスキルを学べることを考えれば、もってこいの素材。新型がすぐに出てくることはないが、こういう楽しみ方も十分あります。



何とか粘って完走 #11





予選からパーフェクトウイン #87



1Lap 及ばず 2位 #62



またもまたもまたも届かず #450



S2000 は 4位 #22



今回も 5位 #106

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

開幕戦は、序盤からほぼ理想通りのレース運びをした#87「IDI SYCシビック」が制した。シリーズチャンピオンの#450「トルネオの大冒険」はまたも2位、なかなか頂点が獲れない、あと欲しい勲章は”勝利”。

そして#110「アライメント浜松チーム」、#62「CLNチーム」、#87「瀬戸自動車チーム」をはじめとする強カチームがアツいバトルを展開するこのクラス、今回も9台がエントリー。

■予選

予選トップは開幕戦に続き#87「IDI SYCシビック」が1'02.134で2戦連続の全体PP、連勝へ最高のスタート。コンマ1秒差で追うのは#110「DXLアライメント浜松レビン」1'02.258、今季初優勝を狙う。3番手は#450「トルネオの大冒険」1'02.694、チャンピオンを獲得するほどの速さ強さは充分なれど、なかなか勝利が遠い、今回はどうか。

4位#62「WN ワコーズCLNシビック」が1'03.169、開幕戦は2位発進、一昨年のチャンピオンチームは、王座奪還に燃えている。5位は久々の出走、#22「NAHレーシング S2000」1'03.665。6位は#106「D&M スパイクオート 106」1'04.412、7位は#24「オートディレクションミニ」1'07.368、ここはインポートカー対決。8位は#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」1'07.634、開幕戦でボンネットが開くトラブルに見舞われたので、ボンネットとガラスが新しくなったの登場。

#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」は少々遅れて到着とのことで、予選は未計測、なんとか決勝には間に合わせたい。

■序盤

序盤は3Cクラスがレース全体を引っ張る。#87「IDI SYCシビック」と#62「WN ワコーズCLNシビック」を中心に#22「NAHレーシング S2000」あたりが僅差の争い。遅れずにくさがるのは#110「DXLアライメント浜松レビン」、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」のAE111レビン勢。

中団は早めのピット戦略か#450「トルネオの大冒険」、ここは開幕戦にも見た光景。それに続くのは#106「D&M スパイクオート 106」、#24「オートディレクションミニ」のインポートカー勢。

■中盤

中盤戦でも上位陣は僅差のバトル。トップを行く#87「IDI SYCシビック」に1~2Lap差で#450「トルネオの大冒険」、#22「NAHレーシング S2000」が付いていく。さらに#62「WN ワコーズCLNシビック」、#106「D&M スパイクオート 106」、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」も続き、どこが抜け出すかまだまだ分からない。スタートから50分ほどしたところで、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」がコースイン、なんとか決勝出走となった。

上位を走っていた#110「DXLアライメント浜松レビン」だが、他クラスの出したSCラン中のピットクローズを見逃したことから3分停止のペナルティ。これにより大きくポジションダウンとなる。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤になっても首位をキープは開幕戦に続き#87「IDI SYC シビック」。同じく全体のラップボードの最上位にその名を刻みながら周回を重ね、ゴールまで1時間の時点で、102Lapを消化。まさに前戦のVTRを見るようだ。追いかけるのは今回は#62「WN ワコーズCLNシビック」で100Lap、3位は#450「トルネオの大冒険」100Lapという具合。

4位は#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」が99Lap、5位#22「NAHレーシング S2000」98Lap、6位#106「D&M スパイクオート106」95Lap、ペナルティで下がった#110「DXL アライメント浜松レビン」が93Lap、#24「オートディレクションミニ」が89Lapで順位こそ下位だが、Lap数は伸びてきている。最後尾の17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」は47Lap、規定周回数は難しそうだが、1Lapでも伸ばしたいところ。

■最終結果

結局#87「IDI SYC シビック」が最後まで譲らずゴール、開幕戦に続き全体のトップチェッカーというおまけまでついで勝利。20キロのウエイトをものともしない走りを見せた。だが盤石に見えたレース運びだが、#62「WN ワコーズCLNシビック」との差はわずか1Lapという僅差で改めての接戦ぶりがうかがえる。

3位はまたもまたもまたも惜しい(大事なことなので3回言いました)、#450「トルネオの大冒険」トップとは2Lap差。4位は久しぶりのエントリーの#22「NAHレーシング S2000」、5位#106「D&M スパイクオート106」、6位#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」と並び、7位はペナルティが痛かった#110「DXL アライメント浜松レビン」、8位#24「オートディレクションミニ」、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」は今回も完走ならず残念。



2戦連続6位 #111



消化不良な感じか #110



Lap数も伸びてきた #24



今回も不運に見舞われた #17



Race Report

GT-CAR PRODUCE



フロントローは 3C が独占



スタートから大激戦!





見事な初優勝！！ #44



少し追いつけなかったか #19



序盤から一騎打ち



連続表彰台をもぎ取った #58



「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

昨年チャンピオンの#19「YADOKARI シビック」が開幕戦を制したが、ニューカマーの#44「剛式レーシングシビック」も2位に入り、混戦の予感のこシーズン。第2戦をとって流れを引き寄せるのはどのチームか。開幕の3チームに加え、インポーターカーのクリオを含む計6チームが参加した。

■予選

予選で首位をとったのはやはり#19「YADOKARI シビック」、1'02.738。後ろに#44「剛式レーシングシビック」1'04.164、さっそく一騎打ちの予感。3番手には#58「小林板金 EG6」1'05.098 がつけ逆転を狙う。4番手はニューカマー#16「そらそうよシティ」1'05.794、5番手#7「レマンカーズミュルサンヌクリオ」1'06.438 もニューカマー、6番手#1「ミュルサンヌ MR-S」1'08.108。注目は5番手につけたクリオ、シリーズ初参加のルノー車、2.0のいわゆるルノースポール(RS)がどこまでイケるか、ちなみにエキゾーストはいい音をしてました。さすがはF1直系か。

■序盤

序盤から一騎打ち、先に#19「YADOKARI シビック」がピットインを仕掛ければ、#44「剛式レーシングシビック」が周回を稼ぎ、今度は#44「剛式レーシングシビック」がピットに入れば#19「YADOKARI シビック」が引き離す。3番手は#16「そらそうよシティ」、なかなか渋い走りで3番手をキープ。間もなく1時間といったところで#7「レマンカーズミュルサンヌクリオ」がターン10でコースアウト。SCランとなったが、マシンは自走可能。最下位に下がったものの修復され戦列に復帰。4番手は#1「ミュルサンヌ MR-S」、5番手#58「小林板金 EG6」。

■中盤

中盤もがっぷり四つ、同一Lapで#19「YADOKARI シビック」と、#44「剛式レーシングシビック」が競り合う。3番手以下は#16「そらそうよシティ」、#1「ミュルサンヌ MR-S」、#58「小林板金 EG6」の順で表彰台をかけての争い。#7「レマンカーズミュルサンヌクリオ」も戦線復帰後は、周回を伸ばしており完走を目指す。



Race Report

■終盤

さあ、レースは終盤、2時間を経過してともに124Lapを消化した#19「YADOKARI シビック」と#44「剛式レーシングシビック」。まったくどちらが勝つかわからない。

その一方で表彰台争いも熾烈、#16「そらそうよシティ」、#1「ミュルサンヌ MR-S」、#58「小林板金 EG6」一時は#16が抜け出したかに見えたが、終盤を迎えて3台の差が2Lapほどにつまって来た。こちらも最後までわからない。

#7「レマンカーズミュルサンヌクリオ」はこのペースが維持できれば規定周回数はクリアできそうだ。



3位と同一周回ながら惜しい #1

■最終結果

最後まで接戦となったオープンクラスは#44「剛式レーシングシビック」が1Lap差で逃げ切り2戦目にして初優勝！#19「YADOKARI シビック」が2位という結果。

もつれたもう一つの争いは、#58「小林板金 EG6」が表彰台 Get！#1「ミュルサンヌ MR-S」は同一周回ながら届かず4位、#16「そらそうよシティ」も1Lap及ばず5位となった。6位#7「レマンカーズミュルサンヌクリオ」は序盤のコースアウトに負けず初完走。



岡田監督のコメントを聞きたいです #16

■総評

優勝争い、表彰台争いともに接戦となった第2戦。それぞれが同一周回もしくは1Lap差のなかでのレースということで、集中力を切らさずにどのチームも走り切ったことは称賛に値しよう。

マシンの注目はやはり、今大会3台目のインポートカー、クリオ。中盤走行中にコースアウトしたものの、力強いエキゾーストとエスプリあるデザインは、国産ホットハッチとはまた違った魅力。次戦にもその走りを期待したい。



ここはユノディエールですね #7



今回のグリッドガールは Mina ちゃん♥